

第 119 回日本小児科学会学術集会でシンポジウムを開催しました

メディカルサポートセンター（山本、石塚、綾部、正田、目澤）

2016 年 5 月 13 日から 15 日に札幌にて第 119 回日本小児科学会学術集会が開催され、「子どもの環境と健康を考える-エコチル調査に期待すること」というテーマでメディカルサポートセンター企画のシンポジウムを執り行いました。

弊センターのセンター長斎藤博久先生と特任部長の大矢幸弘先生が座長を務め、エコチル調査関係者の先生方に各ご専門分野の視点から調査に期待されることとお話し頂きました。

会場には 100 名近くの小児科医の先生方にお集まり頂き、エコチル調査をより知って頂く機会となりました。また、ご参加いただいた先生方からの貴重なご意見などから、エコチル調査は国際的にも重要な調査であること、日本から世界へエビデンスを示していく必要があるということを変更して認識しました。

針田 哲室長（環境省総合環境政策局環境保健部環境リスク評価室）

「エコチル調査とは」

岸 玲子先生（北海道大学環境健康科学研究教育センター）

「環境疫学の視点で見たエコチル調査の強みと課題：北海道スタディ 13 年の経験を踏まえて」

足立 雄一先生（富山大学大学院医学薬学研究部小児発達医学講座）

「子どもの環境とアレルギー」

伊藤 善也先生（日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域）

「子どもを取り巻く環境が内分泌・代謝にどのような影響を与えるか」

小枝 達也先生（国立成育医療研究センターこころの診療部）

「子どもの環境と精神神経発達」



後列左より 大矢先生、斎藤先生、足立先生、小枝先生

前列左より 針田室長、伊藤先生、岸先生